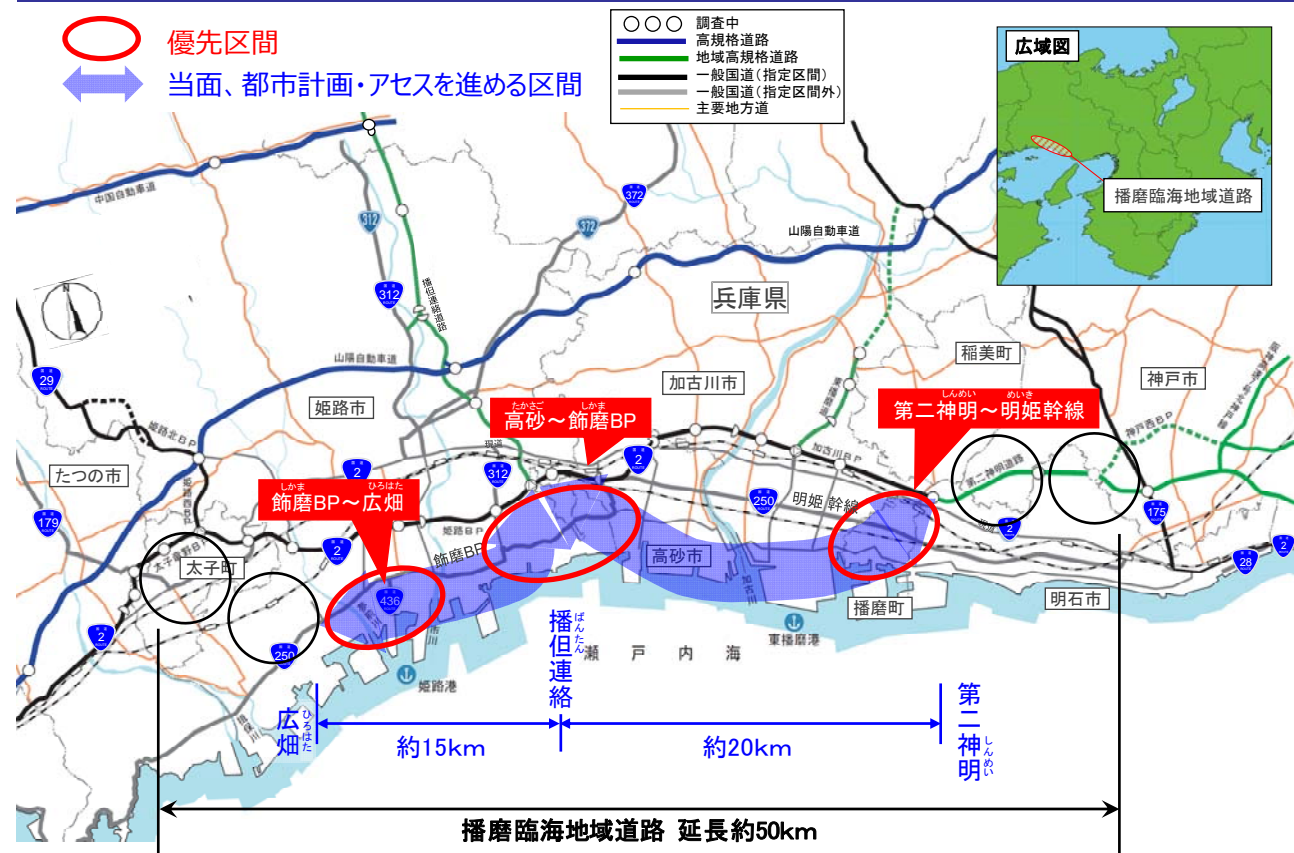


はりまりんかい  
播磨臨海地域道路



播磨臨海地域道路整備促進大会

平成30年5月19日 (約2,900人が参加)



# 要望書

「はりまの成長なくして日本の成長なし」

播磨臨海地域道路の早期実現を！



日交通量9万台！  
渋滞が慢性化する加古川バイパス



播磨臨海地域は  
世界のものづくり拠点



日本最大のクルーズ船「飛鳥II」寄港  
国際拠点港湾 姫路港



日本城郭の年間最多入城者286万人  
世界文化遺産・国宝 姫路城

## 兵庫県

播磨臨海地域道路網協議会  
播磨臨海地域道路網建設促進協議会  
播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

# 要 望 書

平成31年3月14日

貴職におかれましては、平素から播磨臨海地域道路の計画推進につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

特に、昨年7月には計画段階評価の第2回近畿地方小委員会を開催していただき、早期実現に向け着実に進んでいるものと、深く感謝しております。

さて、播磨臨海地域は、日本を代表する多様な企業の製造拠点が集積し、多くのトップシェア製品を生み出す日本有数のものづくり拠点です。平成28年の製造品出荷額は5兆5千億円を超え、ここ10年間の企業の設備投資は約2兆6千億円にもなり、他の大都市をはるかに凌ぐ規模であります。

そのような中、東西交通の要である国道2号バイパスは絶大なストック効果を発揮してきましたが、交通量が9万台から12万台と交通容量の約2倍で、慢性的な渋滞が発生し、物流機能の低下を招いています。

こうした課題を解消する播磨臨海地域道路は、「ひと」・「もの」の流れを抜本的に改善し、「生産性革命」に資する道路であり、将来にわたり地域の自立・持続的発展に大きく寄与するものと考えています。

「はりまの成長なくして日本の成長なし」、日本の新たな「創造と成長」は、ここ播磨から始まるといっても過言ではなく、播磨の地域創生こそが日本の経済成長を力強く牽引するものと確信しています。そのためにも本道路の早期実現が不可欠であり、次の事項について格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 早期着手に向けた「計画段階評価完了」と「都市計画決定等に向けた検討促進」  
(第3回近畿地方小委員会の早期開催)
- 2 早期完成に向けた国と県の役割分担による整備  
(播但連絡道路から東側を国、西側を県で整備)
- 3 早期完成に向けた有料道路事業の導入検討  
〔 有料道路事業の料金徴収期間の延長  
 国道2号バイパスから播磨臨海地域道路への交通転換を図るための検討 〕
- 4 播但連絡道路接続部の早期整備に向けた検討
- 5 道路関係予算の総額確保

兵庫県知事

井戸敏三

播磨臨海地域道路網協議会

会長 姫路市長

石見利勝

副会長 加古川市長

岡田康裕

監事 明石市長職務代理者明石市副市長

和田満

監事 高砂市長

登幸人

理事 稲美町長

古谷博

理事 播磨町長

清水ひろ子

理事 太子町長

服部千秋

神戸市長

久元喜造

播磨臨海地域道路網建設促進協議会

会長 姫路商工会議所 会頭

齋木俊治郎

副会長 明石商工会議所 会頭

平岡勝功

委員 加古川商工会議所 会頭

釜谷和明

委員 高砂商工会議所 会頭

森本幸吉

委員 稲美町商工会 会長

廣田政文

委員 播磨町商工会 会長

森田孝

委員 太子町商工会 会長

高井國昭

播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

会長 兵庫県議会議員

釜谷研造

副会長 山本敏信 北条やすつぐ 竹内英明

事務局長 松本隆弘

理事 水田裕一郎 掘井健智

会員 原吉三 石井秀武 上野英一 藤本百男

岸本かずなお 北浜みどり 伊藤勝正

迎山志保 谷口俊介 山口晋平 松井重樹

天野文夫 吉岡たけし 樽谷彰人 岡つよし

戸井田ゆうすけ 五島壮一郎 住吉寛紀